

反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都 代表世話人

# 仲尾宏さんを偲ぶ会

2023年7月16日(日)13時30分から  
京都教育文化センター

## 次第

進行 寺田道男、天野博

開会挨拶

新開純也

黙とう

献杯

木戸進次

★第1回 2007年10月21日 国際反戦デー

仲尾宏代表世話人の主催者挨拶(録画、写真)

仲尾さんを語る①

懇談

仲尾さんを語る②

閉会挨拶

千葉宣義

---

## 呼びかけ

反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都 実行委員会

代表世話人:新開純也、事務局長:寺田道男ら

## 声 明

園田 浩(仲尾 宏)・執筆

### (1)

1960年のなかばに日本を襲った激動は、日本の革命の展望に大きなエポックを劃(わか)した。階級闘争の冷酷な試練は、現実の闘争の方向に一つのポイントを与えるとともに、階級闘争の担い手をも厳しく淘汰した「6・15の栄光と無残」は、政治活動としての政治過程における闘争の遂行力のみでなく、諸処の闘争のイデオロギーが現実の試練にどれ程耐えるのかの吟味の舞台となった。その結果いわゆる党派の闘争遂行力の限界とイデオロギーの破たんが明らかにされた。今年に入って本格的に発生した構造改革派の日共からの分離も、こうした時期の闘争の結果の一定の反映にほかならない。だが混迷と退嬰にいらどられているかにみえるこの舞台にとって最大の収穫は思想的流動状態の発生である。それは「前衛不在論」として誌的に美化されたりしているが、なによりも科学に対する真剣な態度と思想に対する自由な検討の重要性を導きだした。それは現在の段階では、相次ぐ「ドグマの破産」として見事に現実化されている。

関西において、われわれは現実の闘争に関しては、局部的な組織力しか持ち合わせなかった。しかしながら一切の呪縛と伝説から解放されたわれわれは、この思想的流動状態を最大限に活用して、自己の批判力を研ぐことを最も大きな任務と考える。真理のための闘争こそ階級闘争を闘いぬく第一の保障だからである。

### (2)

共産主義者同盟の闘いの総括も、一つの組織的総括としてではなく、個人の自己変革の完成の観点からの総括でもなく、また一局面ごとの政治過程の総括でもなく、全体として同盟の現実の指導力の限界が日本革命の展望(第三次綱領草案としてえがかれた)を具体化し得ないものであったことを、まず確認しなければならない。そして、この事の原因は全体の情勢を統一して捉える観点でなく、同盟一又は新左翼一の出現をいわゆるスターリニズムやその他の諸潮流に対する左翼的反対派としてしか、現実に現象化させ得なかった「観点の狭益性」に求められるべきである。この種の左翼反対派の思考との決別、すなわち世界構造と資本主義の危機の把握の方法と、階級闘争の遂行力(大衆闘争と政党)の展望を全体像として掌握することが必須の課題である。

### (3)

同時にわれわれの組織は、労働者階級解放のための物資力たるべきである。従って如何なるイデオロギーも、現実の過程に介入することなくしては無意味である。一つの展望が論理にとどまるか、武器となりえるかは、一に物質化の過程にかかっている。われわれ学生運動が、政治過程で一定の物質化ができたからこそ、その結果として、闘争の徹底化が権力の奪取—プロレタリア独裁の展望に直結することを論理的に証明するだけでなく、日本革命の一つの展望を切りひらく方向として総括できる。従ってわれわれは労働運動において、一職場に於ける組合内左翼としてではなく、一つの政治潮流を形成する努力が、すぐさま始められるべき新左翼の最大の任務であると考えている。そして、それは社会民主主義的組合指導部に対する原則の対置ではなく、現実の闘争に対する具体的な指針を生み出す努力を通じて物質化されなければならない。

### (4)

われわれの眼前にある課題の大きさに比べ、われわれの能力は絶対的貧困に近い。われわれは前衛党をつくりだすながい過程の中の一つの小さな試みとして自己を位置づけたい。次つぎと産み落とされるイデオロギー、および諸処の見解に密着して批判する方法は、自己の能力を考える時、不毛の悪循環である。汎ゆる見解に対して、一定の距離をおいて自己の理論を創造したい。



挨拶する故・仲尾宏・代表世話人

2007年10月21日 国際反戦デー

この日から、毎年秋に京都・円山音楽堂に関西一円から結集し、反戦・反貧困・反差別の共同行動が始まった。

—いま、ここで声をあげ、連帯の輪で一人ひとりの思いを力に変える運動をつくりあげねばならない。

若者にも、老人にも、そして子どもたちの未来のためにも、人が人として生きるための希望と信頼を

もたらすための行動が必要である—「10・21反戦共同をなぜ提起するか」から

## 死ぬ日まで空を仰ぎ 一点の恥辱なきことを

東アジアには干支という中国古代からの紀年法がある。

歳月の経過を辿る上で多くの人々に親しまれている歴史意識であるが、それにならえば、今年2020年はその干支の一回りを越えた年である。

そこで、これを機会にこの13年間のわたしたちの闘いを振りかえってみることにした。

私たちはこの運動の起点を10月21日の「国際反戦デー」においた。この日は1966年のベトナム戦争のさなかに世界の良心が結集して、無謀極まるアメリカのベトナムに対する空爆に対して国際的な抗議行動が展開された日である。また日本では1943年に文科系大学生の徴兵猶予が取り消されて東京の外苑球場で東条内閣主催の大激励会が開催されて、数万名の学生が戦地に送られた日でもあった。

私たちは二度とそのような悲劇を繰り返さない決意をこめて、この日「反戦・反貧困・反差別」の大行動をよびかけた。

当日は党派をこえた人々が京都だけでなく、全関西、遠くは東京や名古屋、九州からも年代を越えて1200人の人々が集まった。それ以降、毎年、会場の円山音楽堂には晴雨に係わらずほぼ同じ日にこの共同行動を展開している。

また当日は著名な人びとの講演だけでなく、京都や全国の闘いの現場の報告も頂いている。最初の年にはウトロの闘い、京都の小さな職場で困難な闘争を継続していた女性労働者の闘い、在日の障害者・高齢者の無年金裁判の当事者報告もあり、その後、この会場にはドイツの緑の党の原発廃棄運動の代表や沖縄を始めとする全国の反基地運動や原発廃炉の報告、国会で安倍内閣打倒に向けた闘いも国会議員から報告を受けた。

なかでも印象的だったのは、当時すでに90歳を越していた作家の瀬戸内寂聴さんが激励に駆けつけて、「私は今も恋と革命に賭けています」と激励してくれたことだった。

「変えよう、世界と日本」を旗印に、私たちはこの13年を闘ってきたが、私達の行動原理はここに集う人びとと世代や空間を越えて、かつてのセクト的な行動原理ではなく、それぞれの個人の主張や立場を尊重しながら「ゆるやかな統一戦線」を組み、全国に運動の輪を広げていくことをめざしてきた。そのころざしは未だ達成にはほど遠いが、やがて沖縄の反基地闘争のように、また韓国の「ロウソク革命」、香港や台湾の若者のように闘いつづけること、決して諦めないこと、志を同じくする人々と協力して、ひとりでも多くの仲間を作っていくことをこれからも続けていきたい。

「死ぬ日まで空を仰ぎ 一点の恥辱なきことを・・・」(尹 東柱「序詩」)

(尹 東柱は1945年 治安維持法違反で有罪判決を受けて福岡刑務所で獄死した朝鮮(韓国)の詩人 当時同志社大学生)

2020年6月1日

反戦・反貧困・反差別共同行動in京都  
代表世話人 仲尾 宏

故・仲尾 宏さん

2023年1月2日死去 享年86歳

【略歴】

1936年 京都府に生まれる。

1956年 京都市立朱雀高校卒

1959年 共産同同志社細胞結成(「小さな旗揚げ」)

1960年 同志社大学卒業

1961年 労働者協会設立(「烽火」)

1962年 関西共産主義者同盟結成(「共産主義」)

2007年 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都 結成

2023年1月まで、同上 代表世話人(2022年 闘病で休)

京都芸術短期大学教授、京都造形芸術大学教授、同客員教授

世界人権問題研究センター理事

在日コリアン・マイノリティー人権研究センター理事長

朝鮮通信使ユネスコ世界記憶遺産登録日本側学術委員長

2000年：京都市国際交流賞、2007年：京都新聞学術文化大賞

2021年：韓国国際交流財団「第8回韓国国際交流財団賞

【著書】

『前近代の日本と朝鮮 朝鮮通信使の軌跡』明石書店・1989年

『京都の渡来文化』淡交社・1990年

『体系朝鮮通信使 善隣と友好の記録』全8巻(辛基秀共編)明石書店・1993年 - 96年

『Q&A 在日韓国・朝鮮人問題の基礎知識』明石書店・1997年

『日本とのつながりでみるアジア 18 東アジア1』岩崎書店・2003年

『朝鮮通信使』岩波新書・2007年

『京都の渡来文化と朝鮮通信使』阿吽社・2019年

『講演録 東アジアに恒久平和を築くために』アジェンダ・プロジェクト・2021年

など多数

